

## 郡のだんじり

安 川 満

### 【講座の概要】

#### 1. 郡のだんじりと郡総社宮秋祭り

郡のだんじりは毎年 10 月に行われる、岡山市南区郡地区の総社宮の秋祭りで曳行されます。郡町内の組ごとに「西組」「中組」「東組」の 3 基のだんじりがあり、岡山市の有形民俗文化財に指定されています。3 基は江戸中期から明治のもので、市内の太鼓台状のものに比べ大型で洗練されたものとなっています。県下では牛窓、邑久、八浜など瀬戸内海沿岸にこうしただんじり曳行の祭りが多く、京都・祇園祭などの上方の影響を感じさせます。

祭りでは、前日夜に町内を巡って総社宮の前へ集結。祭礼の後、「シャシャキ面」と呼ばれる天狗面、神輿とともに町はずれの「御旅所」まで曳行されます。

#### 2. だんじりの特徴

3 基のだんじりはほぼ同大で、4 個の木製車輪をつけたがっしりした台車に高欄をまわし、母屋柱を立て、唐棟の屋根をのせるものです。いずれも、天井ははらず、屋根も野地板状になっています。細部の特徴や全体のバランスはそれぞれ異なっており、古い西組のだんじりは重量感のある印象を受けるのに対し、中組、東組になると背が高く、彫刻などの装飾も増え、華麗な印象のものとなります。

西組：文化 10 年 (1813)

長さ 3.0 m、幅 1.38 m、高さ 3.0 m

頭貫、出三斗、臺股（彫刻）、一軒吹寄垂木

中組：嘉永 2 年 (1849)

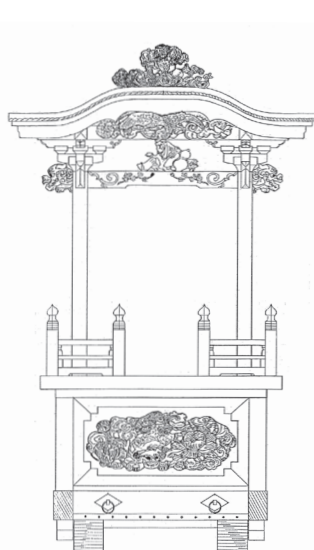
長さ 3.0 m、幅 1.25 m、高さ 3.2 m

内法長押、上長押、出組、詰組、蛇腹支輪、二軒繁垂木、妻飾り虹梁臺股（彫刻）

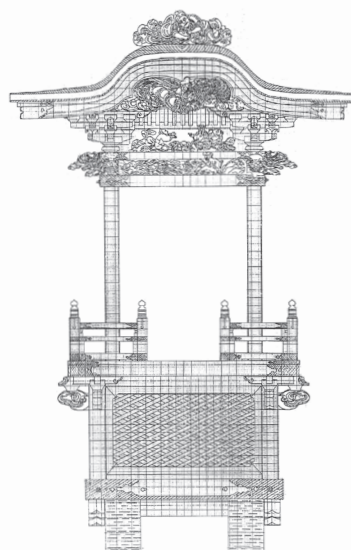
東組：明治 14 年 (1881)

長さ 2.7 m、幅 1.22 m、高さ 3.3 m

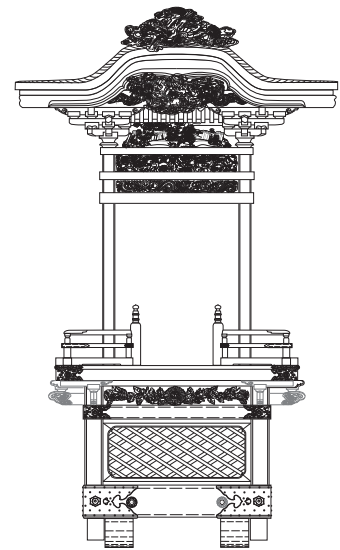
内法長押、下長押、上長押、出組、詰組、蛇腹支輪、二軒繁垂木、妻飾り虹梁又首束



西組



中組



東組